2024 年度　自己点検・自己評価報告書

学校法人 21 世紀アカデメイア

専門学校東京デザイナー・アカデミー

2025 年 4 月 16 日　作成

1・学校の教育目標

●表現力・社会性を有する将来性のある学生を育成する

●東京デザイナー・アカデミーが求める人物像（アドミッションポリシー）

【感動力】感受性を豊かにし、ものごとに感動できる心を持つ人。感動を伝えることができる人

【チャレンジ】何事に対しても前向きな好奇心を持ち、まずやってみようという気持ちが持てる人

【自分らしさ】自分とはどんな人間か、他者とはどこが違うのかを考え、自分らしさをあらゆることに活かせる人

2・本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

●就職

前年度実績	本年度目標
・就職希望率　72.4%	・就職希望率　80.0%
・就職決定率　90.4%	・就職決定率　100%

●進級継続

前年度実績	本年度目標
・1年生前期から後期へ　95.9%	・1 年生前期から後期へ　96.0%
・2年生前期から後期へ　94.8%	・2年生前期から後期へ　95.0%

3・評価項目の達成及び取組状況

（1）　教育理念・目標

評価項目	適切・・4　ほぼ適切・・3 やや不適切・・2　不適切・・1
・学校の理念・目的・育成人材像はさだめられているか	**4**　3　2　1
・学校における職業教育の特色は何か	4　**3**　2　1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4　**3**　2　1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4　**3**　2　1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4　**3**　2　1

①　課題

a.21 世紀アカデメイア独自のカリキュラムの周知がまだ不完全。昨年が初年度実施のカリキュラムが多く実績を伝えられていない

b.学園の将来的なビジョンは明確になっているが、学校による将来構想のイメージが薄い

c.アカデメイアの思想は現在の社会やこれからのニーズにマッチはしているが、まだ具体的なカリキュラム反映が行き届いていない

d.将来活躍する為のスキルは明確に示されているが、それに対しての取り組む為の具体的なカリキュラムについては、まだ途上にある。
　AI に対しての攻略についても同様

e.学校が考える構想の伝達が卒業生、保護者まで浸透していない

f.学園として21世紀アカデメイアの学びの特色を広く発信できているが、本部からの発信が主となっている

②　今後の改善方策

a.新しい21世紀アカデメイア独自の各カリキュラムの実績（昨年）をもとに学校の特色を学生・保護者へ伝えていく

b.東京デザイナー・アカデミーとしてのビジョンを明確にし、在学生・検討者・保護者に対して打ち出していく必要がある

c.d.カリキュラムの見直しを、常に学校全体で行う

e.在校生の保護者を対象とした保護者会を実施する

f.職員ひとりひとりが理解を深める必要がある

③　特記事項

・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想は入学式、オリエンテーション、卒業式を通じて学生・保護者等には伝えられている

（2）　学校運営

評価項目	適切・・4　ほぼ適切・・3 やや不適切・・2　不適切・・1
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4　**3**　2　1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4　**3**　2　1
・運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、 有効に機能しているか	4　**3**　2　1
・人事、給与に関する規定等は整備されているか	4　**3**　2　1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4　**3**　2　1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4　**3**　2　1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4　**3**　2　1
・情報システム化等による業務の効率化がはかられているか	4　**3**　2　1

①　課題

a.　社会情勢に合わせた給与システムの構築ができていない。また、専任だけでなく、非常勤講師等の待遇改善も必要な時期になっている

b.情報システム化による業務効率の向上は見られない

c.教育活動の情報公開の機会は少ないと感じる

d.数年前より課題として取り上げているが、アナログ作業が多く、本格的なシステム統合化の推進が必要

e.年度計画、月々の目標など短期的な目標は提示されるが、今後を見据えた中長期的なビジョンが見えにくい

f.準備期間も網羅したチームごとの年間スケジュールがあれば、新任職員の理解が捗る

g.人事評価に上長の意見を反映させる機会が少ない

h.講師給の単価が低く、専門的な教育人材を取り損ねている。また、値上げ交渉に応じられずに講師のモチベーションが下がったり、
費用が見合わないと辞退されるケースも増えている

② 今後の改善方策

b.既存のシステム（Teams など）を活用した業務効率の向上について、情報システム部からの提案を依頼したい。また、出席システムの早期導入を実現させる

c.オフィシャルサイトや SNS を活用して、教育活動の報告をより活発に行う

e.経営陣による中長期的な安定した未来を見据えた運営方針・ビジョンを開示することによって、教職員のモチベーション向上させ、安定した学校運営に繋げる

③ 特記事項 なし

（3）教育活動

評価項目	適切・・4　ほぼ適切・・3 やや不適切・・2　不適切・・1
・教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4　**3**　2　1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているのか	**4**　3　2　1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているのか	4　**3**　2　1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4　**3**　2　1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等がおこなわれているか	4　**3**　2　1
・関連分野における実践的な職業教育（産業連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4　**3**　2　1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	**4**　3　2　1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4　**3**　2　1
・成績評価・単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4　**3**　2　1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4　**3**　2　1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4　**3**　2　1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4　**3**　2　1
・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みがおこなわれているか	4　3　**2**　1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4　3　**2**　1

① 課題

a.学科教員の専門知識を習得するための研修等が実施できていない。職員への研修制度が確立されていない

b.先端的な知識・技能を習得する研修機会が少ない

c.職員研修は行っているが機会は少ない

② 今後の改善方策

b.職員が業界動向を把握・研究する機会を積極的に増やしていく必要がある（業界イベントへの参加や企業見学など）マネジメントコース/スペシャリストコース等、教職員のコースを明示する

③ 特記事項 なし

（4）学修成果

評価項目	適切・・4　ほぼ適切・・3 やや不適切・・2　不適切・・1
・就職率の向上がはかられているか	**4**　3　2　1
・資格取得率の向上がはかられているか	4　**3**　2　1
・退学率の低減が図られているか	4　**3**　2　1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4　**3**　2　1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4　**3**　2　1

①　課題

a.退学率の低減については毎年ハードルが上がっている

b.卒業生の活動を知る機会がない

c.退学率はスクールカウンセラーと連携し常に分析等行っているが向上が難しい状況

d.就職率は年度によってばらつきがある

e.卒業後のキャリア形成について考えるカリキュラムができたことは大きな進歩だが、運用面で不安がある

②　今後の改善方策

a.メンタルヘルスに課題を抱える学生の割合が高く依然として退学率の課題が改善されていない件について、カウンセリングルームや職員研修だけでは十分な対応が難しいため、専門医による特別講座の実施も検討すべき（塚本）入学者の傾向に合わせた施策が必要。また教職員の人数についても適切であるか検討っを行う

b.卒業後の状況把握はグループ全体で動く方針へ変わった事によりさらに把握が出来るよう進めていく

c.精神的に悩みを抱えている学生は入学前から問題を抱えている学生が多い。引き続きスクールカウンセラーと連携して進める

d.卒業時の就職率のみに重きを置かず、長期的な視点で将来の活躍を重視する方向にする

(5)学生支援

評価項目	適切・・4　ほぼ適切・・3 やや不適切・・2　不適切・・1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	**4**　3　2　1
・学生相談に関する体制は整備されているか	**4**　3　2　1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	**4**　3　2　1
・学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	4　**3**　2　1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4　3　**2**　1
・学生の生活環境への支援はおこなわれているか	4　**3**　2　1
・保護者と適切に連携しているか	4　**3**　2　1
・卒業生への支援体制はあるか	4　**3**　2　1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4　**3**　2　1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みがおこなわれているか	4　**3**　2　1

①　課題

a.保護者との連携については各学科に任されており、学校全体としての体系的な仕組みは整備されていない

b.作品投稿サイト(Pando)を用いた就職支援システムを整備してきたが、サイトの存続が危ぶまれている

②　今後の改善方策

a.保護者とのやり取りに使用する IT ツール(LINE、メール、ポータルサイトなど)を構築する

b.代替サービスの利用を検討。求人管理システム(スタログ)を利用した卒業後の就活支援の実施を検討

c.就職や経済的な支援については、学校法人全体で新たな支援組織・制度を整備中

③　特記事項

・クロスオーバーフライデー、クロスオーバーサミットを課外活動として捉えて今後も更に発展して行きたい

・保護者への文書連絡の拡充を今後も積極的に進める

（6）教育環境

評価項目	適切・・4　ほぼ適切・・3 やや不適切・・2　不適切・・1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4　**3**　2　1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4　**3**　2　1
・防災に対する体制は整備されているか	4　**3**　2　1

①　課題

a.防災に対しての各校舎体制など職員への周知・訓練など不十分

b.施設の老朽化が進んでおり、施設の充実よりも修繕に多くのコストがかかっている

c.施設・設備の学生からの不満についてはスチューデントエコーでも複数、寄せられているが対応が追いついていない

d.海外研修（LA サミットなど）については現在選抜制での実施に留まっている

②　今後の改善方策

a.防災訓練などの実施、見直しを行う。明確に各校舎の責任者を設定する

b.在学生の学習環境を充実させることはもちろん、進学を検討している方々にも施設の魅力をアピールできるよう、計画的に予算を設定する

③　特記事項　なし

(7)学生の受け入れ募集

評価項目	適切・・4　ほぼ適切・・3 やや不適切・・2　不適切・・1
・学生募集活動は、適正に行われているか	4　**3**　2　1
・学生募集活動において、教育効果は正確につたえられているか	4　**3**　2　1
・学納金は妥当なものとなっているか	4　**3**　2　1

①　課題

a.募集活動において教育効果を十分に伝える事が出来る機会が少ない

b.昨今の進路選択早期化に置いて若年層からの校名認知や訴求に課題がある

②　今後の改善方策

a.学生版「People's Voice」などの紙媒体やデジタル資料を作成し、募集活動にも効果的に活用していく

b.デザインの学校ならではの「コンテスト」「ワークショップ」といった施策で、若年層へのアプローチを行い、全体的な募集活動の底上げをする。また、競合校との差別化(アカデメイアメソッド)を明確に打ち出していく等、戦略面での改善を行う

③　特記事項　なし

（8）財務

評価項目	適切・・4　ほぼ適切・・3 やや不適切・・2　不適切・・1
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4　**3**　2　1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4　**3**　2　1
・財務について会計監査が適正におこなわれているか	4　**3**　2　1
・財務情報公開の体制整備はできているか	4　**3**　2　1

①　課題

なし

②　今後の改善方策

なし

③　特記事項　なし

（9）法令等の遵守

評価項目	適切・・4　ほぼ適切・・3 やや不適切・・2　不適切・・1
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4　**3**　2　1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4　**3**　2　1
・自己評価の実施と問題点の改善をおこなっているか	4　**3**　2　1
・自己評価結果を公開しているか	**4**　3　2　1

①　課題

a.個人情報保護に関する職員研修は実施されたものの、内容が現場に浸透するまでには時間を要する

b.個人情報などの管理について個人によってのばらつきがある

②　今後の改善方策

a.年１回の集合研修に加え、短時間・定期的なｅラーニングやミニ研修を導入

b.教職員研修で教職員全体の意識を変えていく

③　特記事項　なし

（10）社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・4　ほぼ適切・・3 やや不適切・・2　不適切・・1
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行なっているか	4　**3**　2　1
・学生ボランティア活動を奨励、支援しているか	4　**3**　2　1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4　3　**2**　1

①　課題

a.社会貢献や地域貢献に取り組む学科が存在する一方で、そうした取り組みがない学科もある

b.地元商店街のお祭り等、可能な範囲で地域貢献を行っているが、まだ数が少ない

c.地域貢献、公開講座に関しては、年度による開催となっており、単年度での実施で終わることも多い

②　今後の改善方策

a.生涯学習などの大規模なプロジェクトよりも、より軽い内容のプロジェクトを実施（例：3 か月に一度のキッズデザインスクールなど）

b.地域の課題や問題を、デザインを通じて解決することによって貢献できるような体制を構築し、同時にその訴求活動も強化する

③　特記事項　なし

（11）国際交流（必要に応じて）

評価項目	適切・・4　ほぼ適切・・3 やや不適切・・2　不適切・・1
・留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っておこなっているか	4　**3**　2　1
・留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がおこなわれているか	**4**　3　2　1
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	**4**　3　2　1
・学修成果が国内外で評価される取り組みをおこなっているか	4　**3**　2　1

①　課題

a.就職難の影響で、中国からの留学生が増える見込みがあり、今後職員の数が不足する懸念がある

b.留学生の生活指導等について適切な体制が整備されているが想定外の問題も多く起こる

②　今後の改善方策

a.留学生担当職員を増やし、募集、継続、就職においても、より手厚いサポートを提供する

b.留学生対応専門の部署のスタッフを拡充し、日本語教員と一体になってサポートを行う

③　特記事項　なし

4・学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

1)新たな取り組みについて

学校法人名・学校名の変更に伴い、姉妹校の連携による新たな教育的取り組み（富士五湖サミット、FUJI－CALIFORNIA YOUNG ARTISTS EXPO、クロスオーバー・フライデー、クロスオーバー・サミット）が始まった。そういった取り組みを通じ、学生たちにとってさらに能力を伸ばす機会につながった。一方で、全て新規に取り組んだものであったため、教職員・学生を含めた全体への浸透、及び運営方法などに課題を残した面も見受けられた。今後も内容を精査しながら継続していくことによって、より高い学修成果につなげていくことを目標とする。

2)卒業生との連携について

2020年から続いたコロナ禍によって、あらゆる面において人間関係が希薄になり、そのことが学生と教職員、学生同士の人間関係にも影響を及ぼしつつある。数多くの卒業生を輩出している学校であるにも関わらず、卒業生との関りは限定的であり、個々の教職員とのつながりに頼らざるを得ない状況が続いている。卒業生たちの活躍を学校としていかに体系的にフォローしていくかが、今後の課題である。

3)教職員の質の維持について

学校として質の高い教育を提供し、業界から求められる人材を輩出していくために、教職員の質の確保は至上命題となる。優秀な専任教員、講師を採用するための適切な評価体制と待遇改善を、恒久的に推し進めていく必要がある。また、既に在籍している教職員の指導力、ならびに専門性を向上するための研修も、現状では充分とは言い難い。今後は教職員が資質向上のために受講する学外研修のサポートや、研修予算の増額などを検討する。

以上

専門学校東京デザイナー・アカデミー
学校自己点検・自己評価委員会

＜委 員 長＞
竹田　卓司

＜副委員長＞
古田　千明

＜委　　員＞
塚本　浩貴
田中　新兵
小田切　多喜
田邉　啓太
田畑　風音

＜事 務 局＞
有賀　史彦